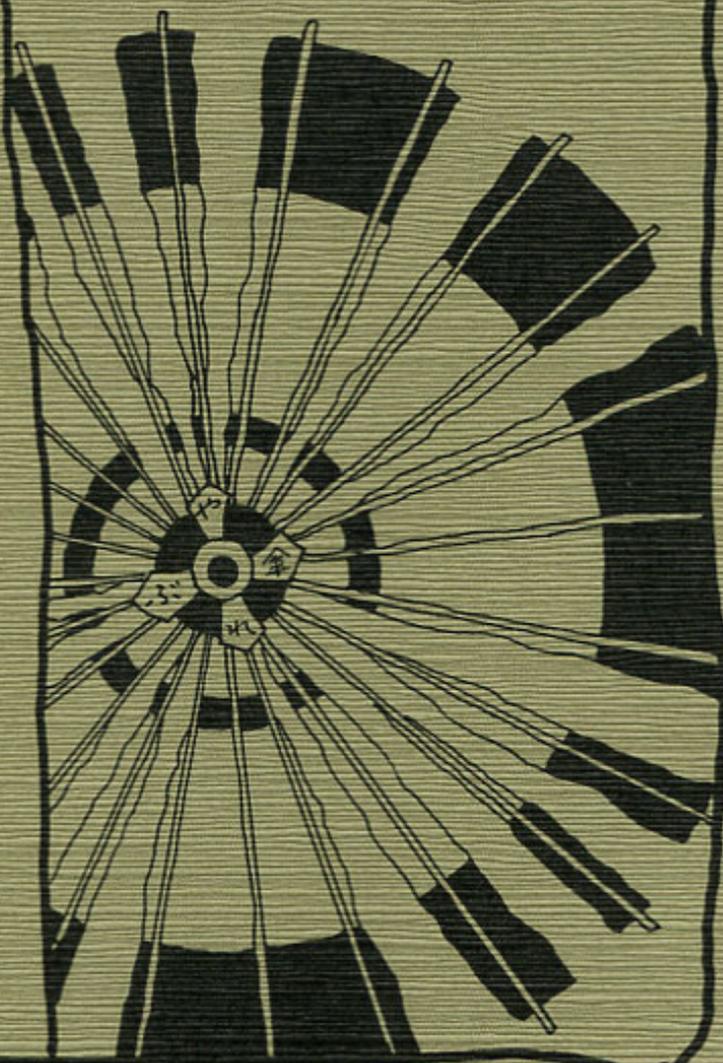


# やぶれ傘



五十六号

二〇一〇年十月

おしろいや淡路亭てふ球撞き場	根橋宏次
上州の方に稲妻生まれたる	大島英昭
ざりがにの逃げて濁りの立ちにけり	廣瀬雅男
手花火のたけなはを子へわたしをり	きくちきみえ
新涼や雲の行方を野に佇ちて	安藤久美子
なほ続く踏切警報西日中	秋葉貞子
打ち水の流れて土に滲むところ	瀬島酒望
日盛りのテニスコートの球拾ひ	丑久保勲
板の間に新聞広げ今朝の秋	白石正躬
早天に正午の鐘の鳴りにけり	藤井美晴
吾亦紅潮の香とどくところにも	國保八江
水門を落つる水音青田道	渡邊孝彦
両の手で受くる初なり胡瓜かな	有賀昌子
合歓咲けり元荒川に枝を延べ	久世孝雄
俎板を削りに出せり朝曇	天野美登里

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 れ ぶ や

長老の顔ひとつ減り夏祭	湯本 出
緑蔭や流れの縁に石仏	秋山信行
水音の遠くなりけり草いきれ	浅嶋 肇
縁先にかぼちやのふたつ届きけり	奥田温子
手に馴れしバッグ艶めくパリー祭	菊地葉子
橋下に吹かれおはぐるとんぼかな	忽那みさ子
青柿の二つ生りたる若木かな	齋藤朋子
水口に両手を洗ふ田草とり	篠崎善久
宿の下駄つつかけて行く蛭狩り	鈴木昌子
山鳩のこゑのしきりや夏木立	高柳正幸
日盛りのホームで携帯メール打つ	時田義勝
雲の峰供花いつばいの遭難碑	都丸スミ子
女面取りて麦茶を呑んでをり	橋本美代
道場へ道急ぎゆく良夜かな	松村光典
滝開き禰宜滝に向け矢を放つ	松本善一

枝  
蛙

大崎  
紀夫

梅雨川の出合ふふたつの濁りかな  
ゆるゆると沼へゆく道枝蛙  
せせらぎにひかり河鹿の背にひかり  
底紅に夜雨の粒ののこりけり  
日照雨降る祭りの中を歩きけり

種多き餓鬼忌の西瓜くらひけり  
秋近し吹かれて木の葉しらしらと  
黴の香やギロチンの刃を吊るす紐  
くわつと日の南瓜にあたる畑かな  
雹はねて二つ三つは四阿へ  
炎昼のからすは二三步づつ歩く  
船に紐張つて魚干す秋の昼

球拾ひ

丑久保勲

連なつて路線バス来る立葵  
日盛りのテニスコートの球拾ひ  
河骨や油膜のひかる池の端  
吊り革は浴衣の娘ばかりなり  
溝川の橋に風くる夜の秋  
湯上りや冷やしトマトに塩かけて  
木鋏の音は向うに木槿垣  
数珠玉やバケツ持つ子と攪網持つ子  
ニスかな朝顔咲かす白き家  
マンホールミュンヘンからラツパの音秋ふかし

今朝の秋

白石正躬

草にゐてまたおはぐるのよれよれと  
みんみんの軽く尿して移りけり  
夕風に蚩袋の傾ぎけり  
生ぬるきバナナいたたく夏座敷  
灯のならば遠くの橋や夜の秋  
せせらぎに足を浸して夏惜しむ  
板の間に新聞広げ今朝の秋  
盛り蕎麦でお昼をすます秋早  
頂上で空踏みしめる秋の風  
芋の露両手にうくる女の子

早天

藤井美晴

電線に梅雨晴れの風鳴りにけり  
梧桐の広葉の影のゆらぎかな  
雑木山白雨ののちを土にほふ  
じやがいもの花咲く畑やちぎれ雲  
早天に正午の鐘の鳴りにけり  
夏落葉掃く平日の美術館  
斑<sup>みちおしえ</sup>猫<sup>ねこ</sup>飛ぶ墓までの白き道  
旅<sup>つり</sup>に<sup>し</sup>て水澄む湖に遊べるか  
悼 森澄雄先生  
秋蝶の降りて静かに羽を閉づ  
夜は秋の山気下り来る家郷かな

吾亦紅

國保八江

バスを待つ旅二日目の蟬しぐれ  
一輪車漕ぐ子供等に西日さす  
電柱を一樹のごとく凌霄花  
板の間の板の湿りや額の花  
夏蝶の滯のひかりとなりけり  
世話人は尻つ端折りに浴衣着て  
大太鼓の低き響きに踊るかな  
炎天の墓に卒塔婆を立てにけり  
髪を梳く天窓よりの月明り  
吾亦紅潮の香とどくところにも

青田道

渡邊孝彦

自 転 車 の 撤 去 告 示 や 濃 紫 陽 花  
夏 草 や レ ー ル の 多 き 操 車 場  
聴 診 器 で 木 の こ ゑ を 聞 く 夏 の 朝  
蜘 蛛 の 巣 は ア ガ パ ン サ ス の 茎 の 間 に  
水 口 の 水 の 勢 ひ 蓮 の 花  
白 南 風 や 幟 は た め く 郵 便 局  
片 陰 の 壁 に 凭 る る 読 書 人  
水 門 を 落 つ る 水 音 青 田 道  
ひ ぐ ら し の こ ゑ の 頻 り や 森 の 縁  
そ よ 風 に 千 屈 菜 の 揺 る 岩 間 かな

胡瓜

有賀昌子

花木五倍子門太き寺の門  
花檸檬紅茶にひとつ浮かせけり  
花蜜柑胸にクルスの幼女立ち  
風立ちてライラックの香裏庭に  
両の手で受くる初なり胡瓜かな  
雲の峰チキンライスに旗の立ち  
経堂の藁のひかり竹落葉  
蠅取蜘蛛の跳ねてをりけり伽藍堂  
朝焼や山小屋の灯は昨夜のまま  
梅雨の雷オルセー展の上走る

合 歡

久世孝雄

仄暗き敷石伝ひ夏料理  
のぞき込むカサブランカの花の奥  
噴水のしぶきの風を顔に受け  
空はるかもぎしトマトにかぶりつく  
百日紅下級の武士の屋敷跡  
合歡咲けり元荒川に枝を延べ  
腹にだけ掛けし真青の夏布団  
朝顔の路地の奥なる妻の郷  
かなかなや耐震工事の小学校  
鍬に石当たる音して晩夏かな

俎板

天野美登里

夕風は雨を伴ひ文字摺草  
俎板を削りに出せり朝曇  
大夕立洗濯物はそのままに  
昼風呂のお湯はぬる目に浮いてこい  
鱧あると行商人の声かかる  
帆立貝七輪の火は網にまで  
たこ焼きの鰹節踊る秋初め  
飯粒の残るしやもじや今朝の秋  
蔓先の揺れゐる烏瓜の花  
コスモスのひと群残る空地かな

瓜 山 枯 木 崖 虎 草  
 坊 畑 色 の 上 杖 に  
 は 畑 の 枝 の の 座  
 真 に い に 家 新 し  
 一 雷<sup>かみなり</sup> ま ふ に 芽 友 と  
 文 雲 く ゆ 灯 に ほ  
 字 の な り 流 る の ほ  
 に 風 し う つ ぼ 梅 雨 の 深 し  
 草 き た ぼ 梅 雨 の 深 し  
 む た ぼ 梅 雨 の 深 し  
 ら た ぼ 梅 雨 の 深 し  
 へ る 草 し 夜 雨 の 深 し

渡部光徳

岩 山 涼 風 長 風 涼  
 陰 寺 風 わ 老 呂 風  
 に の の た の 上 や  
 沿 の か る の り ル  
 ふ 庭 す 山 の 顔 の ー  
 蟻 水 か の ひ 類 ペ  
 の 汲 に 街 と に 片  
 道 汲 吹 道 つ 涼 手  
 あ む け 道 減 風 の  
 り せ り 百 夜 季  
 に み 一 合 り 明 語  
 け 時 里 の 夏 け 探  
 り 雨 塚 花 祭 前 し

湯本実

## ◇ 11～12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	3日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	24日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	27日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
12月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	上野動物園	丑久保 勲
	22日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	25日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室	

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月19日(日)の吟行。集合は10時。JR上野駅公園口改札口。(東京文化会館の前)。吟行地：上野動物園。句会場：滝野川会館403集会室。JRで上中里駅へ移動。徒歩5分。(古河庭園の筋向かい)。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565  
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ